

令和4年度中予地方局予算事業成果表

1 基本事項

- (1) 事業名 観賞用ユーカリ産地拡大事業費
(2) 事業期間 令和4年度～令和6年度
(3) 所 管 農林水産振興部 農業振興課 地域農業育成室
(4) 予算額 1,636 千円

2 事業目的

ユーカリは、管内で主要な品目として栽培され、中でも観賞用のユーカリ・グニーは全国有数の産地であり、また、豊かな香りとインテリア性の高さから人気は高まっている。そこで、水田転換ほ場における排水性改善技術や苗供給体制の確立をはじめとした安定生産技術の確立を図るとともに、市場等を通じ消費者ニーズに応じた新たな品種の導入を検討し、ユーカリ産地拡大に取り組む。

3 主な取組（何をしたか）

(1) 中予地域ユーカリ生産対策協議会の開催

生産対策協議会(図 1)を2回開催し、苗供給体制及び安定生産技術確立、実証ほ設置について情報共有を図った。



図1 生産対策協議会

(2) ユーカリ・グニーの産地拡大

○苗供給体制の確立

挿木及び育苗講習会を開催した(計6回、延べ59人)。

秋定植栽培の未収益期間を短縮させるために大苗を育苗し定植した(実証ほ2か所)。

○安定生産技術の確立

排水性改善技術の検討

水田転換ほ場において、ほ場通路に縦穴をあけ(図 2)、耕盤層より下に停滞水を排出させ、水はけの改善を図った。



図2 縦穴をあけ排水性改善

○技術実証

収量増加のための樹形の検討をした(実証ほ2か所)。

水田転換ほ場での栽培技術を検討した(実証ほ2か所)。

(3) 新規ユーカリ品種の導入

5月から有望品種(パルブラ、アップルボックス、ポポラス、グロブロス)を試作した(実証ほ2か所)。

4 成果（何がどう変わったか）

- 生産者の自家育苗技術が向上し、挿し木発根率が最大30%となり、栽培面積が13.8ha(前年比0.3ha増)となった。また、大苗秋定植により、未収益期間を7か月短縮した。
- 水田転換ほ場における株枯れ症の発生率が30%から10%に低減し、収量が8,278本/10a(前年比114.5%)と増加した。
- 新規4品種とも定植1年目の秋から出荷可能であり、地域適応性があることを確認した。